

平成 23 年 市職員への年頭訓示

みなさん、新年明けましておめでとうございます。

今年の元旦は、寒波の到来で例年より寒かったものの好天に恵まれ、職員の皆さんには、健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年は十干の「辛(かのと)」、十二支の「卯(う)」で「かのと・う」の年です。「かのと」は改めるという意味で、「陽なるエネルギーが、敢然として上に出現する」と言われており、一方「う」は、「芽」を意味する言葉で、「芽や葉が茂る」、繁栄を意味するものであると言われています。合わせると「陽なるエネルギーが出現し新たな繁栄・発展に向かう年」であろうと思います。

日本経済が不況というトンネルを脱出し、景気が回復し皆様にとりましても良い1年でありますようお願いいたします。

さて、昨年、皆さんには、それぞれの部署において市政運営にご尽力いただき、誠にありがとうございました。

また、平城遷都 1300 年祭、第 26 回国民文化祭京都 2011 プレイメントと題しまして様々な事業を実施し、市内の観光振興の種を蒔くことができたものと思っております。そして木津川アートでは、市内外の素晴らしい若手芸術家たちの作品により本市の魅力や人材の豊富さを改めて気づききっかけとなり、大変嬉しく思っております。

さて、早いもので木津川市も市制発足以来、丸4年を迎えようとしています。4年前に市長に就任して以来、私は「クリーンで心のかよった」「木津川市に住みたい、住み続けたい」と実感して頂けるようなまちづくりを進めてまいりました。この間、合併協議で確認されました事項や、旧町から残された多くの課題に取り組むとともに、市民の皆様とお約束したことを、一つでも多く達成できるよう進めてきたところでございます。

職員の皆さんには、合併という初めて体験する大事業を乗り越え、混乱の中においても、それぞれの立場で日々仕事に励んでいただきましたおかげで、各種の事業を着実に進行させることが出来たものと、心から感謝いたしております。本当にありがとうございます。

しかしながら、依然として社会情勢は厳しく、木津川市においてもその影響は避けることが出来ません。更には、合併の効果はまだ十分に出せていないのが現状です。以前から申し上げておりますとおり、私は、合併を選択する理由の一つに将来の子や孫のために持続可能なまちづくりが必要不可欠だと申し上げてまいりました。

現在は、合併の特例により旧3町分の交付税が確保され各種事業の実施ができていますが、合併による地方交付税の特例措置は、平成28年度から段階的に減額されます。木津川市の、健全財政を構築するためにも限られた財源の中で、職員の皆さん一人ひとりが危機意識を持ち、中長期的なビジョンに立って更なる行財政改革を実践していただきたいと思います。

また、日々の生活においても、今日の社会情勢や木津川市のおかれている状況の把握に努めていただき、大きな時代の流れをつかむ広い視野を持っていただきたいと思います。

例えば、新聞や報道で取り上げられた出来事が、自分の行っている業務に関係がないのか。市への影響がある場合は、どのように対応すれば良いのかなど、社会と自らのつながりを認識し、責任感を持って行動が取れるよう心がけて下さい。このような日々の積み重ねが、何事にも迅速に対応でき、一層の自覚と責任を持った仕事につながるものと確信いたします

さて、初代市長としての私の任期も残り4ヶ月弱となりましたが、更なる市の発展と山積する課題解決に向け職員の皆さんと一丸となって、取り組んでまいり所存でございます。職員の皆さんも更に研鑽を深め励んでいただくことをお願いする次第でございます。

最後になりましたが、本年も市民の皆様、そして職員の皆様にとりまして、健康で素晴らしい一年になりますようから祈念いたしまして、年頭の訓示といたします。